



# 2025年度 全日本オリエンテーリング 選手権大会 大会報告書

2026年2月8日(日) **スプリント**競技部門

第18回全日本オリエンテーリング選手権大会(スプリント競技部門)

The 18th Japan Sprint Orienteering Championships 2025

開催地

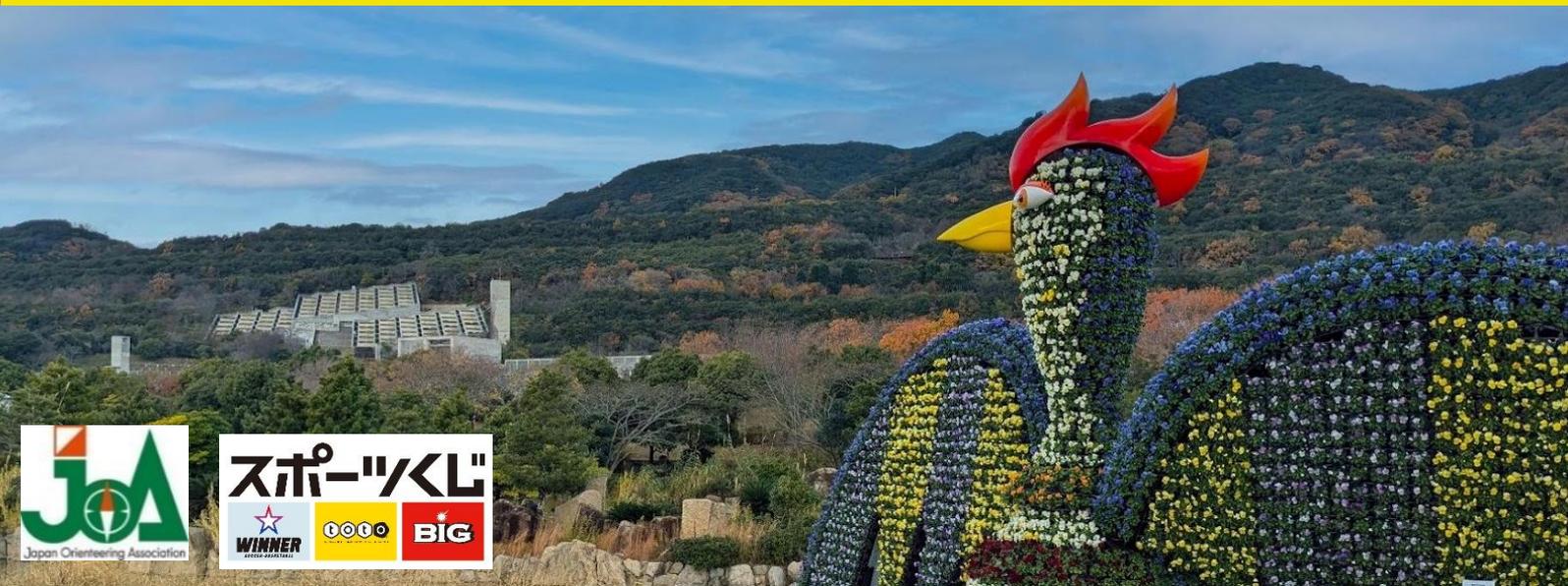
兵庫県淡路市 **国営明石海峡公園**

会場

**国営明石海峡公園 移ろいの庭**

▶公式成績表は大会 Web サイトにて公表しています。

## 日本最速王者決定戦



# ご挨拶

第 18 回全日本  
オリエンテーリング選手権大会  
(スプリント競技部門)  
実行委員長 下江 裕貴



2月8日(日)に2025年度全日本オリエンテーリング選手権大会スプリント競技部門を兵庫県淡路市の国営明石海峡公園で開催して早1か月が経ちました。全国から466人ものエントリーをいただき、当日も大寒波をものともしない熱い戦いが繰り広げられたこと、大変ありがたく思います。

本大会のコースは一般来園者との接触リスクといった安全面を考慮しつつ、パーク0的なトレインを如何に全日本スプリントとしてふさわしいコースに仕上げるかということに苦心しながら、コース・プランナーや競技責任者を中心として検討を重ね作り上げました。結果、多くの参加者からテクニカルな良いコースだった、楽しいレースだった等、嬉しい感想を多く聞くことができました。一方で、適切な優勝設定タイムや地図表記、技術力と走力のバランスといった面での指摘もいただいております、今後の全日本スプリントにおける重要な課題を認識することとなりました。こうした課題は実行委員会のみならずオリエンテーリング界全体で活発に議論していきたいところであるとも感じています。

先に述べたように、本大会は大寒波が襲来するなかでの開催となり、大会にも大小様々な影響がありました。特に、強風の影響で本来の予定と異なる形となった人口柵が運営やレースに及ぼした影響は大きく、スプリント競技特有の悪天候対策というのも今後の大きな課題になったかと思えます。

また、本大会では観戦者にもより大会を楽しんでもらおうとフォトコンテストやライブ配信といった演出にも取り組みました。こうした試みは悪天候により現地観戦者が想定より少ないなかでも、一定の成果はあったのではないかと思います。反省点も含めて次の実行委員会に引き継ぎ、全日本大会をより盛り上げられる観戦について模索していただければ幸いです。

最後になりましたが、大会開催にあたり多大なご理解とご協力をいただいた国営明石海峡公園スタッフの皆様、大会をご支援くださった後援・JOA オフィシャルパートナーの皆様、大会を最後まで支えてくださった運営役員の皆様、大会を盛り上げてくださった参加者の皆様全てに、この場をお借りして心より感謝を申し上げ、挨拶とさせていただきます。

# 1 大会概要

## ▶参加者数

466名（選手権クラス 92名、選手権クラス以外 374名）

## ▶天候

月日	天気概況 昼	降水量 [mm]	平均気温 [°C]	最高気温 [°C]	最低気温 [°C]	日照時間 [時間]	平均風速 [m/s]	最大瞬間風速 [m/s]
2026年 2月8日	雪時々曇	0.5	2.2	5.6	-0.7	1.7	<b>6.4</b>	<b>19.5</b>

※気象庁の過去の気象データ検索より（<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/>）引用しています。

## ▶救護案件およびその対応

・軽傷（擦過傷）が1名。救急車要請等はなし。

## ▶選手権クラス入賞者

ME			
順位	氏名	所属	記録
1	平岡 丈	朱雀 OK	0:16:54
2	橋本 遼佑	OLP 兵庫/羅針盤	0:17:16
3	二俣 真	朱雀 OK	0:17:17
4	美濃部 駿	渋谷で走る会	0:17:47
5	古角 海志	東北大 OLC	0:17:50
6	伊藤 樹	三河 OLC	0:18:05

WE			
順位	氏名	所属	記録
1	近藤 花保	OLC ルーパー	0:17:12
2	増澤 すず	Moxina OK	0:19:18
3	桑原 唯歩	静岡 OLC/東京大学大学院	0:19:27
4	松本 萌恵	OLP 兵庫	0:19:42
5	小野塚 智美	筑波大学	0:19:44
6	阿部 悠	ES 関東 C	0:19:47

## ▶選手権クラス特別表彰

ME 特別表彰 学生			
順位	氏名	所属	記録
1	橋本 遼佑	OLP 兵庫/羅針盤	0:17:16
2	美濃部 駿	渋谷で走る会	0:17:47
3	古角 海志	東北大 OLC	0:17:50

WE 特別表彰 学生			
順位	氏名	所属	記録
1	桑原 唯歩	静岡 OLC/東京大学大学院	0:19:27
2	小野塚 智美	筑波大学	0:19:44
3	中舘 美卯	KOLC	0:20:17

ME 特別表彰 18歳以下			
順位	氏名	所属	記録
1	小坂 眺慧	-	0:22:23

## 1. 大会概要 (つづき)

### ▶年代別クラス優勝者

ME			
クラス	氏名	所属	記録
M21A1	鈴木 寛人	名梶 OLC	0:16:30
M21A2	角谷 拓海	東大 OLC/ときわ走林会	0:16:49
M30A	谷川 友太	京都 OLC	0:13:55
M40A	源後 知行	みちの会	0:16:11
M50A	本間 晃	静岡 OLC/CCC	0:15:30
M60A	吉野 信治	OLP 兵庫	0:16:15
M70A	山本 博司	ES 関東 C	0:13:13
M80A	児玉 拓	多摩 OL	0:18:06
M90A	石田 亘宏	愛知 OLC	0:15:56
M20A	村中 達	京大 OLC	0:15:16
M18A	-	-	-
M15A	清水 溪杜	広島 OLC	0:13:52
M12	-	-	-
M10	-	-	-

WE			
クラス	氏名	所属	記録
W21A	伊部 琴美	OLC ルーパー	0:16:35
W30A	谷川 理恵	京都 OLC	0:17:34
W40A	三宅 裕子	JDOA/入間市 OLC	0:26:32
W50A	高津 寿三鈴	Club 阿闍梨	0:13:11
W60A	小林 正子	ES 関東 C	0:14:31
W70A	成田 美奈子	入間市 OLC	0:11:56
W80A	-	-	-
W90A	石田 美代子	愛知 OLC	0:26:54
W20A	徳倉 朋夏	筑波大学	0:16:49
W18A	-	-	-
W15A	-	-	-
W12	源後 彩乃	みちの会	0:05:50
W10	-	-	-

▶成績速報およびラップ解析を Lap Center に掲載しています。

成績速報、ラップ解析

<https://mulka2.com/lapcenter/index.jsp?event=9581>

▶全クラスのコースを Livelox に掲載しています。同一コースを走った選手とルートと比較することができます。ぜひご覧ください。

全クラスのコース

<https://www.livelox.com/Events/Show/179508/>

▶大会当日の写真を公開しています。ぜひご覧ください。今後の広報活動等に利用することがあります。

大会当日の写真 (小柴 滉平さん)

<https://photos.app.goo.gl/cFTFary14AuVhnpHA>

大会当日の写真 (木植 早生さん)

<https://photos.app.goo.gl/ZMmjAjpVPpty8mx46>

## 2 調査依頼

競技責任者：高野 兼也

コース・プランナー：西下 遼介

本大会では当日、競技内容に関して2件の調査依頼を受理した。

なお、いずれも提訴には至っていない。

### 【案件1：通行不能箇所（柵）の通過】

内容：直進不可の柵をとおっている選手が何人かいた。調べて失格としてほしい。

状況：地図記号「518 通行不能の柵または手すり」で表記された箇所を通過した競技者が複数名目撃された。当該箇所などオレンジネットを設置した場所は前日の時点で胸の高さまで物理的に通行不能な状態となっていたが、当日の強風により設置物が倒壊しており、競技途中での倒壊を避けるためレースの公平性と競技者への安全を配慮し、レース前に柵を地面近くまで下げる対応を取っていた。これにより、現地では競技者が容易に通過可能な状態となっていた。

判定・対応：

運営側で通過した選手を特定（断定）できなかつたため、当該事案による失格処分等の対応を見送った。



当該箇所である44番コントロール付近の地図上の表記



競技エリア内に設置したオレンジネットの様子(左：前日、右：当日朝)

**【案件 2：通行不能水域の渡渉】**

内容：WE9→10 で通行不能の川を渡った選手を見た。

状況：選手が地図記号「301 通行不能な水域」で表記されたトレイン北東部に南北に流れる川を渡渉しているとの報告があった。

判定・対応：

当該選手へヒアリングを行ったところ、事実関係を認めたため、ルールに基づき失格処分とした。



「301 通行不能な水域」で表記された該当の川(1/18 時点 撮影)  
当日はさらに干上がっていたため、容易に渡れる状況にあった

## 3 課題と反省

運営責任者 藤本 拓也

### 全日本オリエンテーリング選手権大会（スプリント競技部門）の継続性

#### ▶大会収支

2023 年度大会と比較すると、約 250 名参加者が減少し、参加費収入および地図販売収入は約 60 万円減少した。本大会では、これに加えて JSC くじ助成金を約 160 万円受けている（2023 年度大会までは助成金無し）。支出面では、運営者の宿泊交通費の増加、資材レンタル料金の増加、公園入園料を参加費に含めたことなどにより、約 50 万円増加した。収支はほぼゼロとなった。

支出の増加については東京都開催であった 2023 年度大会とは異なり、関西地区での開催であった面が大きいと考えられる。具体的には遠方からの運営者の宿泊交通費や、大型資材をオリエンテーリング関係ではない業者からレンタルしたことによるレンタル料金増加などであるが、いずれも必要経費だったと考えている。

全日本スプリントは赤字開催が長く続いていたが、本大会では黒字開催にすることができた。当面は JSC 助成金を受けて黒字での開催を続けることを目標とする。

#### ▶スプリント競技のプレゼンス

前述の通り参加者数は 2023 年度大会と比べて減少しているものの、西日本開催でのオリエンテーリング大会としては近年で最大クラスの参加者を集めることができた。これは、近年日本でスプリント競技への関心・意識が高まっていることの現れであると感じる。

一方で、「全日本大会」としては関東地区以外の開催でも 1,000 名以上の参加者を集めるミドル・ロング競技と比べて存在感が物足りないというのも事実である。トップ選手のみならず多くのオリエンテーリング競技者が行きたいと思えるような大会となるよう、魅力ある大会を継続的に開催していく必要があると感じる。

## 競技と大会の今後の発展に向けて

### ▶業務委託について

本大会では競技責任者、会計・エントリー担当をオリエンテーリング事業者に委託した。競技責任者は例年業務負担量が重く、会計事務についても JSC 助成金の導入により負担が増している。次年度以降も事業者へ委託していくことが適切であると考えている。なお、競技責任者については当日会場に来られないというアクシデントがあった。コース・プランナーが代理で当日の競技責任者を務めたが、他に競技面のことを熟知している運営者がおらず、当日対応の負担が重かった。競技責任者を事業者へ委託する場合でも、副競技責任者を事前に設定しておく必要があったと感じた。

また、事業者へ委託していない役職では、資材担当者や要項担当者の負担が特に重かった。これらの役職についても事業者への委託、副担当者の設置を検討すべきであった。

### ▶渉外について

本大会は国営公園での開催であった。担当者の方には当初から開催に理解を示していただくことができ、渉外面では危なげなく大会当日を迎えることができた。

近年全日本スプリントを含めてスプリント競技の開催の渉外面でのハードルは上がっている。本大会でも当初は滋賀県での開催を目指していたが、候補となる場所の渉外（都市公園 2 か所、大学キャンパス 1 か所）が立て続けに不調となり、滋賀県での開催は断念したという経緯がある。結果として、近年の開催実績が複数ある公園のトレインでの開催となった。

全日本スプリント継続開催のために、今後も開催実績のある公園トレインも有力な選択肢になると考えている。

### ▶安全面について(競技責任者：高野 兼也、コース・プランナー：西下 遼介)

当日は淡路島内でも時折吹雪が見られるほどの悪天候に見舞われ、一般利用者が極めて少なかったこともあり、第三者を巻き込む大きな事故やトラブルは発生しなかった。

#### 【事前想定と対応】

試走段階では以下の懸念点を抽出した。

特にコース設定では、トイレ出入口付近へのコントロール設置を回避、また大通りの横断を最小限に抑えるレイアウトや使用範囲の集約により充分に対策を実施した。

また、リスクが該当するエリアにおいてパトロール要員を増員して配置するなどを実施した。

想定リスク	リスク詳細
歩行者接触のリスク	犬の散歩連れの方、および「こどもの森」周辺の子供との接触
車両接触のリスク	公園管理者の自転車および軽トラックとの接触
死角での衝突リスク	トイレ出入口等の死角から飛び出す競技者と一般来園者との衝突
公園内の大きな道での衝突リスク	脇の広場などから飛び出る競技者と一般来園者との衝突

また、リスクに繋がる運営負荷を少しでも減らすため、以下の取り組みを追加で実施した。

- ・コントロールの統合による全体設置数の削減
- ・設置・回収マニュアルを整備し、回収漏れや付け忘れを未然に防止（前日準備での変更点も即時反映）

## 競技と大会の今後の発展に向けて（続き）

### ▶競技における反省点(競技責任者：高野 兼也、コース・プランナー：西下 遼介)

#### 1. コース設定

今大会では優勝想定タイムの大幅な乖離と、地図の吟味不足が主な課題となった。

前年度（都内の平坦な公園）の計算式を適用し、さらに今回の競技エリアでは不整地と高低差が見られたことから多少のハンデを加えたものの、設定タイムが大幅にずれてしまった。

##### 【現状】

優勝想定タイムに大幅な乖離が見られた。

##### 【対策】

具体的な計算式は詳述を避けるが、計算上の実距離を走者の体感速度に近似させるためには、過去のトップ走者の走行データを基にした「客観的根拠に基づく算出モデル」を確立すべきである。

適正距離の算出ロジックは大会間での引継ぎが不十分であり、現状ではコース・プランナーの経験や能力に大きく依存している。大会の質を一定以上に保ち、運営による誤差を最小限に抑えるためには、この算出プロセスの標準化・仕組化が不可欠である。またこの標準化は、今後プランナー自身の負担の軽減にもつながると期待できる。

さらに精度を向上させるには、よりトップ層に近い走力を持つ試走者の確保が理想だが、有力な走者の多くは選手として出場するため、運営側での確保は現実的に困難な場合が多い。したがって、シミュレーション上で一定の見積もり精度を担保できる用、今後も計算手法のブラッシュアップを継続すべきである。

また、今回は印刷された地図についても運営側準備不足により十分な議論を重ねて検討できなかったと考えられる。

##### 【現状】

- ・実機（印刷済み地図）を用いた細部の吟味、特に実際の色味や視認性の最終確認が不十分であった
- ・競技者から特定の記号（パープルで表現されたコントロール円やレグ線）が判読しづらいとの指摘を受けた
- ・公園特有の「オープン（開けた土地）」「河川」「私有地」といった多様な用地表記が混在した結果、使用色数が多くなった

今大会では以上のような地図表現の吟味が不足していたため、高い瞬発力が求められるスプリント競技において、必要な情報が直感的に伝わらない（視認性を損なう）要因となった可能性がある。

##### 【対策案】

実機サンプルを事前に確認すること、多色使いによる情報の輻輳を避けるため、規格に準拠しつつも彩度を調整し、コース情報を記載するオーバープリントやコントラストを意識したシンボル設定については印刷までに議論を重ねるべきである。

また、これらの内容を盛り込んだスプリント独自の表現・色のガイドラインも今後は検討すべきである。

### 2. 安全面

想定外の悪天候ではあったものの、晴れているものとして強風や天候への備えが不十分だった。特に、選手権待機所は悪天候の中、屋外で長時間待機するという選手へのホスピタリティと、設備環境に課題が残ったといえる。

#### 【現状】

選手権待機所が海に近い屋外（屋根のみ）であり、寒風を防げず、トップアスリートが万全な状態で待機できる環境ではなかった。

#### 【対策】

悪天候でも選手が最善の状態での協議に臨めるよう、選手を第一に考えた待機環境の設計をすべきである。具体的には、暖房設備の確保や、完全に風を遮断できる屋内施設の選定、あるいは仮設テント内での防寒対策を強化すべきである。

ただし、会場の立地条件や予算の都合上、理想的な施設の確保が困難な場合も予想されるため、その場合は限られたリソースの中で最大限のホスピタリティを提供できるよう代替策を講じるなど臨機応変に対応すべきである。

例)選手人数分の使い捨てカイロの配布、温かい飲料や給湯設備の提供、長時間の屋外待機が予想される場合は事前に防寒対策を促すアナウンスを徹底するなど

また、設置物が強風で倒壊するなどにより、当日朝の段階でほとんどの柵が倒壊するなどの事例も発生した。競技の公平性と安全性を鑑みて、当日朝の段階で柵を地面近くまで下げることに、またテープも地面近くに這わせるよう判断した。

今回は事故に至らなかったが、倒壊した資材が飛散し、一般来園者にケガを負わせる、公園内の資材破損などの二次被害の危険性があったと考えられる。

#### 【現状】

オレンジネットと園芸用ポールでは強度が足りず、強風で倒壊した。前日に設置していたうちの大半が当日朝の時点で倒壊していた。

また、前日の設営段階でテープ等の資材不足が発覚し、急遽買い足す事態となった。準備段階での見積もりに余裕がなく、不測の事態への対応力が低かった。

#### 【対策】

自分たちで設営から行う農業用ネットではなく、工事用フェンス等の強風下でも自立・固定できる重量のある資材を標準として調達する。また、必要最小限ではなく、破損や紛失を考慮した余裕を持った数量の調達計画を作成する。気象条件に応じて代替案を作成できればなお良い。

資材を設置する場合は、公園側と密接にコミュニケーションを交わし、設置場所や設置方法の齟齬が無いように努めるべきである。

## 4 主催者・問い合わせ先

### 主催者

#### ▶主催

公益社団法人日本オリエンテーリング協会

#### ▶実行委員長

下江 裕貴

#### ▶運営責任者

藤本 拓也

#### ▶競技責任者

高野 兼也

#### ▶コース・プランナー

西下 遼介

### イベントアドバイザー

#### ▶イベントアドバイザー

橋本 裕志

### スタッフ

#### ▶パトロールチーフ

笠原 健司

#### ▶スタートチーフ

四宮 裕一郎

#### ▶フィニッシュ・計算センターチーフ

遠藤 匠真、山本 敬太

#### ▶会場チーフ

藤田 奈津美

#### ▶式典チーフ

徳力 雅哉

#### ▶救護チーフ

愛場 庸雅

### 問い合わせ先

藤本 拓也



[jsoc@orienteering.or.jp](mailto:jsoc@orienteering.or.jp)



03 - 5843 - 1907 (JOA 事務局)

### Web サイト、SNS

#### ▶大会 Web サイト

<https://www.orienteering.or.jp/jsoc/2025/>

#### ▶全日本選手権大会 (X) @orienteeringJOC

<https://x.com/orienteeringJOC>

#### ▶全日本選手権大会 Instagram @orienteeringjoc

<https://www.instagram.com/orienteeringjoc/>

#### ▶公式ハッシュタグ

#全日本スプリント

#全日本スプリント 2025

#### ▶広報担当 (要項)

石山 良太

#### ▶広報担当 (SNS)

山内 優太、牧島 滉平

#### ▶渉外担当

藤本 拓也

#### ▶資材担当

竹重 拓輝

#### ▶会計・エントリー担当

西村 徳真

井口 大雅、石井 泰朗、石田 倫啓、石塚 陽広、出原 優一、一戸 厚志、今松 亮太、植田 博貴、宇津木 晴哉、大野 絢平、小野 賢二、織田 暁斗、片山 秀昭、片山 裕典、門 瑞起、加藤 優拓、萱尾 澄人、北見 匠、古池 将樹、小池 椋介、小山 真鈴、塩平 真土、実藤 俊太、下江 貴博、下江 範子、竹内 琴美、竹田 涼馬、寺本 遊林、永田 実、中村 和弘、浜口 祐至、林 大樹、平島 俊次、平山 遼太、福井 陽貴、藤田 真央、堀本 卓矢、宮井 沙絵、森江 菜々子、山賀 千尋、山森 聡、横江 明弘、和佐田 祥太郎